

熊大病院ニュース



CONTENTS

特集 ① …………… 2
「新任役職者紹介」

特集 ② …………… 3
「被災地への医療支援について」

知っ得！納得！…… 4
「月経困難症の治療について」

診療科・部門紹介 … 5
◆ 腎臓内科
◆ 血液浄化療法部

新規事業 …… 6
「ドクターヘリの運用開始について」
「中央検査部アミロイドーシス診療体制構築事業」

看護部だより …… 7
「当院におけるがん看護専門分野の活動」

熊本市災害医療福祉訓練、
防災・消防訓練

掲示板 …………… 8



病院敷地内全面禁煙のお知らせ

熊本大学医学部附属病院は、平成19年12月1日から敷地内全面禁煙を実施してまいりました。
喫煙は、肺がんや喉頭がんを始めとする多くのがんや循環器疾患等を誘発しますが、副流煙による受動喫煙によりたばこを吸われない周囲の方々にも健康被害を及ぼします。
本院は、分煙方式では受動喫煙は避けられないと判断し、病院敷地内全てに亘り、教職員はもとより、患者様やそのご家族及びお見舞いの方など、病院出入りの全ての方々にも全面禁煙へのご理解とご協力をお願いしてまいりました。
しかしながら、一部の喫煙者により敷地内禁煙が守られていない状況があり、また、周辺の方々からの喫煙に関する苦情もあることから、平成22年7月1日から、病院の建物内、敷地内（含む中庭、駐車場）および周辺道路を全面禁煙とし、もし禁煙を守れない場合は、来院者には退去勧告、入院患者様には退院や転院を勧告することを決定しました。
皆様のご理解とご協力をお願いします。



熊本大学医学部附属病院

- 理念** 本院は、患者本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。
- 基本方針**
 - ・ 患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
 - ・ 安全安心で質の高い医療サービスの提供
 - ・ 優れた医療人の育成
 - ・ 先進医療の開発と推進
- 患者の権利**
 - ・ 良質な医療を受ける権利
 - ・ 十分な説明と情報提供を受ける権利
 - ・ 自分の意思で医療を選ぶ権利
 - ・ プライバシーや個人情報保護される権利
- 患者の責務**
 - ・ 自分の健康状態について正確に伝える
 - ・ 本院の規則を遵守する
 - ・ 迷惑行為を行わない

<看護師募集中>

あなたの笑顔が熊大病院の顔です。

担当：熊大病院 総務・人事ユニット 人事給与担当
096-373-5913

特集① 新任役職者紹介

神経内科 教授



安東 由喜雄

この度、神経内科教授に就任いたしました。神経内科は、脳卒中や神経感染症、免疫疾患などの急性期の疾患から筋炎やニューロパチー、内科疾患に合併した神経疾患などの慢性期の疾患、さらには遺伝性の稀少疾患からめまいや頭痛などのいわゆるcommon diseaseまで幅広い分野をカバーしなければならない診療科で、頻度の差はありますが、実に日常診療で500を超える疾患をカバーしなければならないと言われております。したがってこれらの疾患に絶えずフレキシブルに対応できる人材の育成と診療体制の構築を目指したいと思っております。

かつて神経内科の疾患は、「わからない、治療法がない、だけど諦めてはいけない病気が多い」と揶揄されておりましたが、最近の医学の進歩の中で、多くの疾患で治療の糸口が見つかりつつあります。益々大学病院神経内科の果たすべき役割が重要になってきました。当神経内科が様々な神経疾患の診断・病態解析・治療の面で高度医療の拠点となれるよう、教職員一同一丸となって努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長



本 尚美

このたび、4月1日付けで熊本大学医学部附属病院看護部の部長に就任いたしました。医療をめぐる環境は急激に変化し、医療の在り方も変換が求められています。平成24年度の診療報酬改定では、「社会保障・税一体改革成案」に示された2025年のイメージを見据えた、在るべき医療の実現に向けた第一歩と位置づけています。そういう状況の中、看護職に期待される役割と責務が高まっており、看護部という組織を管理運営していく看護部長の責任の重大さを強く感じています。

医療の在り方を変え得るキーワードとしてチーム医療が推進され、①各医療スタッフの専門性の向上②各医療スタッフの役割の拡大③医療スタッフ間の連携・補完の推進といった方向性が示されています。看護師が専門性を高め、安全性を確保しながら役割拡大を行っていくためには、十分な教育体制と高度な知識・技術を持った看護職員の定着が重要です。平成22年度に導入した新人看護職員研修制度は、指導者に対しても研修を行うことにより、新人看護師の離職防止とともに看護部全体の質の向上につながっていると考えています。キャリア開発の支援を行い、専門職としてより働き甲斐のある職場は、患者に対する良質な医療の提供に繋がるものと考えます。一方で稼働率・重症率の上昇などにより繁忙を極める看護業務に看護師は疲弊している現状があり、キャリアを積んだ看護師が健康で安心して働き続けられるように、職場環境を整える必要があります。平成19年度から導入した二交代制勤務は、雇用の質の面から見直しの時期に来ております。多様な勤務体制整備へのプロジェクトを立ち上げ、取り組みを始めていく予定です。また業務内容の見直し、ナースエイドの活用などにより時間外勤務の削減や看護師が患者のベッドサイドでより関われる時間を確保し、看護師として働く意欲に繋げ定着を図りたいと思います。

また、特定機能病院の外來診療の在り方も見直しが必要といわれています。新外來棟新築を機に看護体制を見直し、看護専門外來の充実を図っていきたく思います。

他にも熊本大学医学部附属病院という組織の中の看護部として、災害時の対応やさらなる経営への参画、地域連携などいくつもの課題があります。他部門、他施設の方々と連携し、患者・家族に満足していただける医療・看護、看護師として働いて良かったと思える職場づくりを目指して努力していきたくと思っております。今後とも皆様方のご指導とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

副看護部長



山本 治美

この度副看護部長に就任いたしました。なお、初年度は教育を担当することになりました。巷間言われておりますように、組織は「人」です。そして教育とは文字通り「教え」「育む」ことです。まいた種が花を咲かせるためには水を与え日光に照らさなければならないように、スタッフ教育においても、しっかり愛情を注ぐことが重要だと感じております。教育支援室、各病棟との連携を密に行い人材育成に力を注ぎたいと思います。

チーム医療を推進する上で、看護師への期待と担うべき役割は非常に大きいと感じております。実施可能な行為の拡大だけでなく、看護師の専門性・自律性の拡大が非常に重要です。中央部門や各スペシャリスト達との連携強化によって各部署の看護実践能力の底上げを図り、チーム医療の推進、経営参画につなげていくことができるよう尽力して参りたいと思っております。

今までの良き伝統の中に新しい風を吹き込むことでさらに組織の活性化を図ることができると確信しております。新人看護師から看護師長に至るまで、元気で働くことができる魅力ある職場、魅力ある看護部の推進に向けて、微力ではありますが全身全霊で取り組んで参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

特集② 被災地への医療支援について

被災地医療支援委員会からの要請により、内科医を派遣しました。

場所：福 島〈消化器内科より2名〉
北茨城〈代謝内科より1名〉



福 島



消化器内科
古閑 陸夫

東日本大震災の復興に対し、以前より何か貢献できることはないだろうかと考えていたのですが、今回運良く機会があり、福島県南相馬市の南相馬市立総合病院へ1週間消化器内科医として支援に行かせて頂きました。未熟者でどれだけお役に立てたか分かりませんが、そんな私を暖かく迎え入れて下さった病院関係者の皆様にこの場を借りて、まずはお礼をさせて頂きたいと思います。

福島第一原発で道路沿いに北上することはできないため、南相馬へは、仙台空港から車で南下しました。その道沿いには、津波の影響で1階が壊れた家、打ち上げられ放置された船などがあり、また、病院の近くの公園では除染作業が行われており、震災から約1年経った今でも震災の爪痕が生々しく残っていました。

病院では、1週間という短い期間働かせて頂きましたが、その間に、院長先生を始めとして、常勤の先生、地域医療に携わる先生達など多くの方と接する機会がありました。その方達の「福島のために自分たちが頑張るのだ」という熱い思いに、応援に来た自分の方がかえって励まされたような気がします。復興まではまだ多くの困難があると思われませんが、一日も早い復興を心からお祈りしています。



消化器内科
竹口 真隆

2月12-18日の1週間、福島県の南相馬市立総合病院へ行ってきました。福島第一原発から23kmと原発最前線の病院で、その時は温度計の故障で世間が揺れていた時期でした。病床数としては、230床ですが一時全部閉鎖。その後、徐々に再開し、派遣当時は120床が稼働していました。外来患者数や入院患者数も増えつつある一方で、常勤医や看護師の離職が多く、仮設住宅・借り上げ住宅に済む住民の健康管理や、内部被爆検診といった業務をこなしながら日常業務を行い大変な状態です。短期間の診療の中でも、胸のつかえ感できた進行食道癌や腹部症状できた悪性リンパ腫があり、入院患者でもポリペクから胆石性膵炎まで幅広かったです。

街は少しずつ人が戻りつつある一方で、海岸側に行くとも瓦礫の山と家の土台のみが広がっていました。改めて津波の爪痕の凄まじさを目前にしました。

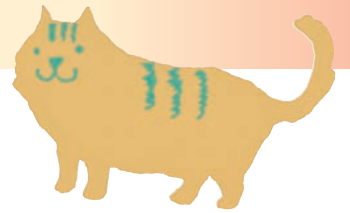
このような災害は、いつ起こるかわかりません。地震・津波に加え、放射能は目に見えないから不安だけが増幅されます。食べ物やそこに暮らすことはたぶん安全ではあるけど、安心ではない。そんな心理が日本中を支配しています。一つ一つ解決していくしかなく本当に長い道のりになるだろうけど、復興を心から願った救援でした。

北茨城



代謝・内分泌内科
松村 剛

この度、全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会から九州地区への医療支援要請を受け、北茨城市立総合病院への内科業務支援を目的に平成24年2月26日、北茨城市を訪れました。北茨城市立総合病院は昭和47年2月の設立で、北茨城市を中心とした茨城県北部と福島県いわき市南部の地域を支える地域医療の中核病院として、一般医療、救急医療、へき地医療、検診医療などに積極的に取り組んでいる病院です。当病院がある北茨城市大津町もまた今回の東日本大震災による地震・津波による被害を少なからず受けており、特に大津港では、多くの家屋が津波に呑まれ、5名ほどの死者も出ているそうです。さらに福島第一原発から約80kmの位置にあることが影響し、常勤医師の自主退職による減少から、中核病院としての機能を維持できないといった状態が続いています。北茨城市立総合病院の内科部門の常勤医師数は4名いるものの、外来・入院患者に対する内科業務に加え、救急部も担当しており、慢性的な人員不足を呈しており、今回1週間の医療支援を行ってまいりました。季節性インフルエンザの罹患者数が多く、また肺炎や急性膵炎などの急性疾患での救急搬送もあり慌ただしい毎日でしたが、あのような特殊な状況下での地域医療に多少なりとも貢献できたのではないかと考えております。1週間と短い期間でしたが、日本人としての絆の必要性を感じさせられる貴重な体験でした。



月経困難症の治療について

産科・婦人科では、このたび慶應義塾大学先端科学研究所などとの多施設共同研究を行い、抗アレルギー薬であるトラニラスト（商品名：リザベン）が月経困難症に対する新たな治療薬となり得ることを明らかにした結果、「月経困難症の予防及び/又は治療薬」として特許を取得いたしました。

Q 月経困難症とは？

月経困難症とは、月経期間中に月経に伴って起こる病的症状をいい、下腹痛、腰痛、腹部膨満感、吐気、頭痛、疲労・脱力感、食欲不振、いろいろ、下痢およびゆううつに多くみられます。女性の3人に2人が月経痛に悩まされており、鎮痛剤が有効な女性は26.8%、鎮痛剤を服用しても日常生活に支障をきたす女性は全体の6%で、その3分の1は月経のたびに寝たきり状態になるともいわれており、労働損失や医療経費を含めた社会経済的損失は年間約1兆円と試算されています。

Q 月経困難症の原因は？

月経困難症の原因としては、原因がはっきりしないものもありますが、最近では子宮内膜症という女性特有の疾患により、痛みを悩まされる方が増加しているといわれています。



Q 今回のトラニラストとはどのようなお薬ですか？

トラニラスト（商品名：リザベン）は、抗アレルギー薬あるいは喘息治療薬として20年以上前より使用されてきた安全なお薬です。今回の研究においてトラニラストには、子宮内膜症の進展を抑制する効果があることが明らかにされ、産科・婦人科において、月経困難症に悩む患者さん10名にトラニラストを投与する臨床試験を行ったところ、月経時の痛みが改善するという結果が得られ、副作用も全く認められずトラニラストは月経困難症に有用であると結論づけられました。現在、子宮内膜症による月経困難症に対しては、表のような治療薬が用いられていますが、トラニラストは卵巣機能に影響を与えない新たな治療薬として期待されます。

(表) 子宮内膜症による月経困難症に対して用いられる薬剤

	長所	短所
鎮痛剤	・即効性がある ・経済的負担が少ない	・消化器症状 ・アスピリン喘息患者に使用できない ・血小板減少症
GnRHアナログ療法	無月経に伴う月経痛の消失注射剤であれば月1回の投与でよい	・長期間(6カ月以上)の投薬ができない ・低エストロゲン症状 ・骨粗鬆症 ・経済的負担が大きい
EP合剤	・治療後すぐに妊娠が可能 ・長期間の服用が可能	・体重増加 ・血栓症の危険性 ・肝機能障害
ダナゾール	・子宮内膜症への直接作用 ・経済的負担が少ない	・体重増加 ・男性化徴候(にきび、嚙声など)
漢方療法	・薬剤の選択肢が多い ・長期間の投薬が可能 ・副作用が少ない	・薬剤選択が難しい ・治療効果の個人差が大きい



一般財団法人恵和会の助成により開催されている院内のイベント等を紹介します。

ひな人形の展示

外来ロビーと中央診療棟エントランスホールにおいて、一般財団法人恵和会のご厚意によりひな人形を展示しました。

ひな人形の展示は、患者様やそのご家族への癒しと、安らぎの空間を演出するため実施したものです。

五月人形の展示

平成24年4月1日(日)から、一般財団法人恵和会のご厚意による五月人形の展示が、外来ロビーと中央診療棟エントランスホールで始まりまし。是非ご覧ください。



熊大病院クリスマス会にくまモンがやってきた

昨年12月22日、サンタやトナカイに扮した職員が病室を回り、71人の子ども達にプレゼントを贈りました。このイベントは、一般財団法人恵和会が行う支援事業の一環として、病気と闘う子ども達に少しでも喜んでほしいと2001年から毎年実施しているものです。

サンタが白い大きな袋から取り出したプレゼントを子ども達は皆喜んで受け取り、プレゼント後は、ボラロイドカメラと一緒に記念撮影をしていました。

その他にも、スペシャルゲストとして、熊本県のPRキャラクター「ゆるキャラグランプリ」No.1に輝いた「くまモン」が登場しました。紙吹雪が舞う中「くまモン」が登場すると、会場からは大きな歓声があがりました。

待ちに待った「くまモン」の来院に子ども達だけでなく、そのご家族や大人の患者様も皆大喜びで、「くまモン」が踊るくまモン体操の音楽に合わせて手拍子を打ったり、記念撮影を楽しんだり笑顔が溢れる催しとなりました。

また、「くまモン」は会場に足を運べなかった患者様の病室にも訪れ、一緒に写真撮影を行いました。患者様からは「元気がでた。ありがとう。」という声が聞かれ、一足早いクリスマスプレゼントとなりました。



診療科・部門紹介

腎臓内科

腎臓内科は内科系の科ですが、手術も行う特殊な内科です。私たちの分野では、血尿や蛋白尿などのいわゆる検尿異常がある患者さん、また腎臓の機能が悪くなってしまっている患者さんを中心に診療を行います。腎臓が大きく関わる高血圧や電解質異常など、幅広く診療を行っています。

腎臓というと『尿を作って血液をきれいにする』というイメージで、腎臓が悪いというと『透析』という印象ではないでしょうか。実は、腎臓には他にも『体内の電解質を常に一定に保つ』、『骨を丈夫にする』、『赤血球を作る』、『血圧を調節する』など大切な役割が沢山あり、腎臓の病気も多種多様です。

一般的に腎臓は、突然機能が落ちてしまうことは少なく、血尿や蛋白尿などの検尿異常から病気が始まることが多いので、この段階で食い止めることが重要です。軽い検尿異常だけではほとんど自覚症状がありません。『体調が悪くて病院に行った時には透析間近だった』、ということがあり得るのです。検尿異常を決して放置してはいけません。私たちはあらゆる腎障害の原因を明らかとし、腎臓を守ることに全力を尽くしています。

私たちのところに患者さんがいらっしゃった場合、尿の精



検尿検査

密検査、血液検査、超音波検査などの侵襲が少ない検査からすすめていきます。診断をはっきりさせ治療につなげるために、腎生検という検査を行うこともあります。一般的な治療は内服治療が中心ですが、入院で点滴治療を行うこともあります。

私たちが最終的に目指すところは、腎臓病にかかっておられるすべての患者さんの腎臓の機能が落ちてしまわないように食い止めることです。しかし残念ながら腎機能が落ちてしまわれる患者さんはおられます。尿毒症症状があらわれるようになると、透析療法が必要です。透析療法には血液透析と腹膜透析の2種類の方法があり、また腎移植という選択肢もあります。腎臓内科が手術を行う特殊な内科であるというのは、このような患者さんたちが大切な命を繋いでいくために、透析療法の準備を私たちが行うからです。

腎臓のこと、むくみのこと、血圧のこと、そして検尿異常のことなどで、気になることがあればいつでも当科へいらして下さい。



腎生検



内シャント造設術

血液浄化療法部

本院における血液浄化療法の歴史ですが、以前より腎不全に対する血液透析を主に稼働はしておりましたが、平成12年に血液浄化療法部として稼働開始し、平成14年9月に西病棟6階に移転し現在に至っています。病床数10床で、専任医師2名、専任看護師2名、臨床工学技士3名の計7名のスタッフで診療を行っています。

血液浄化療法と聞くと難しいかと思いますが、血液を体外循環のうえ浄化させて戻してやる療法の総称であり、その一つである血液透析法を世間では透析と言っており、透析室という名称のところほとんどだと思えます。しかしながら医学の発展にて、腎不全以外の疾患に対しての各種血液浄化療法の実施が増加しており、当院は、そのような症例が多い施設ですので、この名称を使用している次第です。腎不全治療が主目的でない血液浄化療法として当部が具体的に行っていることですが①各難治性疾患（薬物中毒、免疫疾患、代謝疾患、神経疾患、敗血症等）の病因関連物質除去の血液浄化療法、②腎不全透析患者の合併症を治療中の入院中の血液透析、③肝移植・腎移植術前の準備としての血液浄化療法、④小児透析療法において近隣他県からの紹介にまで対応、⑤バスキュラー・アクセス（シャント等）治療、⑥腎移植を泌尿器科と連携し実施、⑦透析

医不在の地方公的病院への非常勤派遣、などです。

現在の血液浄化療法は広範であり、また、当院のように末期腎不全治療の3本柱（腹膜透析・血液透析・腎移植）全てを包括的に実施できる施設の数は少なく、当部としても高度先進医療推進の為にさらに発展させ、高度な血液浄化療法治療の開発推進にも努めていく所存ですので、お見知りおきを願います。



ドクターヘリの運用開始について

平成24年1月16日、熊本のドクターヘリが運用を開始しました。ドクターヘリは救急専用の医療機器を装備したヘリコプターで、機体の後部には大きな観音開きのドアがあり、患者を搬出入しやすくなっています。飛行は気象にも左右されますが、陸上と違って渋滞の影響を受けることなく、到着時間がある程度正確に予測できるというメリットがあります。ドクターヘリによって救急医療の専門医と看護師を現場に迅速に派遣し、治療を開始することが出来るため、救命率の向上や後遺症の軽減が期待できます。また、へき地での救急医療体制の強化や、災害時の医療救護活動の充実も図ることが出来ます。

事故や病気などによる重症患者が発生すると、現場へ到着した救急隊員か通報を受けた消防本部が、熊本空港の県防災消防航空センターにドクターヘリの出動を要請します。ヘリの割り振りについては、一括して出動要請を受ける県防災消防

航空センターが判断します。本院はヘリ救急搬送体制支援病院として、熊本赤十字病院、国立病院機構熊本医療センター、済生会熊本病院と連携し、現場対応や患者の搬送、受け入れを行っています。



中央検査部アミロイドーシス診療体制構築事業

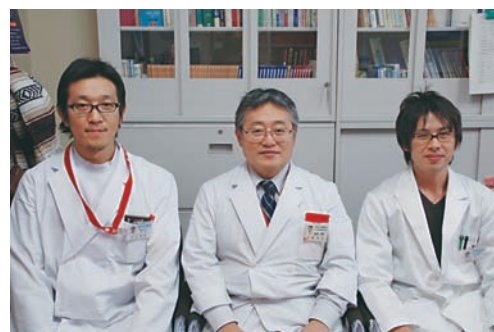
Diagnostic Unit for Amyloidosis, Department of Laboratory Medicine, Kumamoto University Hospital

本年4月、熊本県地域医療再生計画の一環として、中央検査部内でアミロイドーシス診療体制構築事業がスタートしました。

熊本県に世界的な患者フォーカスを持つ家族性アミロイドポリニューロパチー (FAP) や、高齢化社会を迎え患者数が増加の一途を辿るアルツハイマー病をはじめ、現在までに27種類の異なる蛋白質を原因とするアミロイドーシスが同定されており、本疾患の裾野は非常に広いことがわかっております。従来、難病に位置付けられ、治療法も限られていた本疾患ですが、近年、様々な治療法が開発されてきており、早期発見、早期治療の重要性が益々高まってきました。本事業は、県下の関連病院をはじめ県外、さらには国外の施設からのアミロイドーシスに関する診断依頼を請負い、各地のアミロイドーシス患者の早期発見、早期治療に貢献しようとするものです。

本事業での診療・研究・教育は、医学部附属病院

中央検査部、ならびに生命科学研究部神経内科学分野との連携のもとに行われます。本事業が、多くのアミロイドーシス患者にメリットをもたらし、さらには高齢化社会を迎えたわが国における難病医療ネットワークのモデルとなり得るよう、スタッフ一同全力で取り組む所存です。皆様、アミロイドーシス診療体制構築事業へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



左からスタッフの岡田特任助教、大林特任教授、神力特任助教

看護部だより

当院におけるがん看護専門分野の活動

当院は、平成18年8月に都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんセンターを基軸に院内外での質の高いがん医療の提供という役目を担っています。看護の領域においても、看護師教育の充実を図り患者中心の質の高い看護を提供するという責務があります。

がん看護領域のスペシャリストとして、日本看護協会の資格認定制度があります。当院においても、がん看護専門看護師1名、がん化学療法看護認定看護師1名、緩和ケア認定看護師3名、乳がん看護認定看護師1名、がん性疼痛看護認定看護師1名の資格取得者がおり、質の高いがん看護を目指して、日々の活動を行っています。その中でそれ

ぞれの領域の専門性を発揮しながら、苦痛の緩和や意思決定の支援など全人的な看護を実践しています。また、看護師を対象とした院内外の研修を企画・運営するとともに、適宜相談にも応じています。

がん医療は日進月歩で新しい治療法が開発されています。当院の使命を果たすため、がん看護領域の専門・認定看護師がさらに専門性を活かし、患者の希望と価値観に沿った看護を実践し、熊本県地域がん診療連携拠点病院をはじめ他施設と連携してがん看護の質の向上に努めていきたいと考えています。

がん看護の専門性をもつ看護師の役割・活動の紹介

それぞれの専門分野で、質の高いがん看護を目指しています。



がん看護 専門看護師	がん化学療法 看護認定看護師	がん性疼痛看護 認定看護師	緩和ケア 認定看護師	乳がん看護 認定看護師
がん患者の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者様やそのご家族に対してQOL（生活の質）の視点に立った水準の高い看護を提供します。	●抗がん剤治療を受ける患者様ならびにご家族に、抗がん剤治療に伴う苦痛な症状を予防し、不安が緩和できるようにケアします。 ●看護スタッフに、抗がん剤を安全に与薬し、副作用を緩和する看護の提供を支援します。	●がん性疼痛を持つ患者様およびそのご家族に対して、総合的な判断を基に症状の緩和が図れるよう支援します。 ●薬物療法の適切な使用および管理、評価を行います。	●がんの患者様ならびにご家族を対象にがんの発症時より疼痛などの苦痛症状の緩和のためのサポートを行ないます。 ●身体面だけではなく、精神面・社会面・スピリチュアルな面まで含めて全人的に支援します。	乳がん患者様の治療選択に関する意思決定へのサポート、術後リンパ浮腫や治療に伴うボディイメージの変化に対するケアなど、乳がん治療を受ける患者様・ご家族に対する専門的なケアの実践、治療継続に必要なセルフケア確立への支援を行います。
東病棟 11階 樋口 有紀 内線：7448	外来化学療法室 岡本 泰子 PHS：79866	東病棟 11階 坂口 まみ 内線：7448	がんセンター 高野 いづみ PHS：79984 東病棟11階 宮本 真紀 内線：7448	東病棟 7階 鬼塚 美穂 PHS：79830

熊本市災害医療福祉訓練、防災・消防訓練

熊本市災害医療福祉訓練

昨年の10月29日(土)に熊本市主催による災害医療福祉訓練が行われました。この訓練は、都市災害に対応するため、行政は元より警察・自衛隊、本院をはじめ日赤病院など市内の大病院の殆どが参加する大掛かりなものです。

今回は、M7.2、震度6弱の地震が発生し市内に大きな被害が生じ、道路・橋梁等の一部が通行不能となり電話も一部不通となったという想定の下に行われました。

本院の役割は、殺到する近隣の傷病者を、重症・中等症・軽症別にトリアージ(治療優先順序の選別)を行い各診療科に受け入れると共に、受入状況等をパソコン通信で熊本市に報告を行うというもので、訓練には病院長をはじめ医師・薬剤師・看護師・技師・事務職員総勢100名以上が参加し、真剣に役割をこなしていました。



防災・消防訓練

平成24年3月16日(金)、熊大病院教職員が参加する防災・消防訓練が実施されました。これは、地震及び火災時の防火・防災体制を確立すると共に、教職員各自がその任務を把握し、人命及び財産を守ることを目的としたものです。防災訓練では震度6強の地震が発生したという想定の下、防災センターからの地震発生を知らせる放送をきっかけに、自分の身を守る等の初期対応や自衛消防活動を行いました。

消防訓練においては、西病棟5階で出火したという想定の下、訓練が行われました。避難・誘導は火元に近い箇所から行う等、それぞれが自分の取るべき対応を確認しながら、消火班・搬出班・救助班等に分かれ、真剣に消火作業や模擬患者の避難誘導に臨みました。訓練の最後には、熊本市西消防署の方から、まずは自分の安全を確保することが一番大切だとのお話がありました。



